

一生自分の歯で食べられる社会を目指して・・・



お口の健康ネットワーク 会報

Oral Health Network Newsletter No.15. 2013. 1. 10



宿主強化論

NPO お口の健康ネットワーク

理事長 渡邊達夫

昔の病因論は、宿主、環境、寄生体の三つをもとにして考えられていた。これは三つの輪で表現され、多くの人の支持を得ている。急性伝染病はこのモデルに最もよくあてはまる。慢性感染症や生活習慣病になるとこのモデルでは不都合になり、宿主と環境の二元論になってくる。

う蝕を例に考えて見ると、う蝕病原菌とショ糖、歯の三元論で説明されているが、歯磨きだけではう蝕予防は出来ないことは事実であり、フッ化物を応用し宿主を強める方法が最も効果的であることが分かっている。二元論に則れば、宿主強化論の重要性を認識できる。

歯周病は歯垢、歯石が原因だから歯垢、歯石を付けないようにブラッシング指導をし、歯石除去するという原因除去論が支配的であり、その論に基づいて医療保険が組まれている。初診患者はまず検査をし、ブラッシング指導をする。ついでスケーリングとルートプレーニングをし、それでもうまくいかない場合は歯周ポケットを開いて明視野でスケーリングとルートプレーニングをする。スケーリングは歯周病の原因である歯垢と歯石を除去し、根面滑沢化は歯垢の再付着を予防し、根面に付着した菌体内毒

素を除去するために行うのである。

歯垢や歯石が歯周病の原因である、ということが歯周治療の大前提になっていて、その原因除去療法のみが医療保険で認められている。もし、この大前提が間違っていたら、いや、間違っても本質を突いていなければ、歯周病の治療・予防は成果を十分上げることは出来ず、歯周治療を受けても抜歯されてしまうという結果になる。

歯垢は細菌の塊であり、歯周病は細菌感染症であるから、歯垢を除去し、歯垢を付着させないようにする。これは万人が認めるところである。歯垢を付けないようにしたら歯周病は起こらないのか。まあ、そうだろうけど人類は細菌と共存しているのだから、現実には無理だ。少しぐらい細菌が付いていても歯周病にならない方法を考えよう。

歯肉縁上歯石は歯垢が石灰化したもので、細菌は既に死んでいて歯石そのものの生物学的毒性はほとんどない。歯石表層の歯垢が悪いという人もいるが、真偽のほどは分からない。また、歯肉縁下歯石が黒褐色をしているのは、ヘム鉄が含まれているからだという。出血したところに歯肉縁下歯石が出来たのであり、却って

炎症の後に歯肉縁下歯石が形成されたと考える方が妥当である。だから、歯肉縁上であれ、縁下であれ、歯石が歯周病の原因であると考えるのは難しい。

根面を滑沢にしたら歯垢が付きにくいというのは本当だろうか。滑沢化の基準と細菌の大きさを考えたら、すぐには信じられない。歯根表面に着いた菌体内毒素を除去するというけれど、その程度の量の毒素で歯周病が起こるのだろうか。否定はしないけれど、現実的ではない。こう考えると、医療保険の理論的根拠が危うくなる。

歯周病原菌と言われるものがある。これらの毒性は強いし、病巣との相関関係はあるから、歯周病原菌と言っても間違いはないだろう。これ

らのほとんどが偏性嫌気性で、成長因子として血液成分を必要としている。だから、歯周病原菌の棲み家は歯周ポケットの深部で、かつ、血液が潤沢にあるところに限定される。

初診患者に対して、週二回の「つまようじ法」の術者磨きをすれば、1-2 週間以内にブラッシング時の出血はなくなり、歯周病原菌の栄養素を断つことが出来る。そうすると歯周ポケット内の細菌叢に変化が出てくる。毒性の強い細菌は減り、上皮や線維芽細胞が活発になり、辺縁性歯周炎の炎症症状はなくなる。歯周病においても宿主を強くすればよいのである。原因除去療法も否定はしないが、宿主強化療法も説得力がある。

●今後の行事日程

H25年 月 日	内容	開催地	講師等	時間 (予定)
2/17 (日)	予防歯科臨床セミナー 2回コース (1回目)	大阪	黒瀬真由美 小畑 文也	10:00~16:00
3/3 (日)	予防歯科臨床セミナー 2回コース (2回目)			10:00~16:00
4/7 (日)	第9回 理事会	岡山	—	9:00~12:00
	お口の健康ネットワーク研修会 「診療室での口腔乾燥症とその周辺の諸問題への対応について」		北川 善政	13:00~15:00
4/20 (土)	予防歯科臨床セミナー 2日コース	東京	黒瀬真由美 小畑 文也	15:00~19:00
4/21 (日)				9:00~15:30
6/9 (日)	予防歯科臨床セミナー 2回コース (1回目)	大阪	黒瀬真由美 小畑 文也	10:00~16:00
6/23 (日)	予防歯科臨床セミナー 2回コース (2回目)			10:00~16:00
9/8 (日)	第10回 理事会 第5回 通常総会	大宮	—	未定

※セミナー、研修会共参加者受付中です。ご参加お申込の際は事務局までご連絡ください。

診療室訪問

藤原歯科医院



所在地：兵庫県高砂市米田町島 18-29

チェア：6 台

スタッフ：Dr 4 名（うち非常勤 1 名）、DH 6 名（うち非常勤 1 名）、DA 5 名、受付 2 名

受付時間：9:30～13:00、15:00～19:00、（土 午後 14:00～17:00）

休診日：日、祝日

外来患者数：1 日約 60～70 名

今回は、昨年からつまようじ法を採り入れられた、兵庫県高砂市の藤原歯科医院にお邪魔して院長の藤原一樹先生にお話を伺いました。

偶然知った「つまようじ法」

—渡邊先生の講演を聞かれたのがきっかけになったのですね。

インプラントの勉強のため参加した学術集会在がきっかけでした。行ってみると会場が 2 つあり、渡邊達夫先生の「つまようじ法」の講演はコメディカル対象でしたが、もう一つの会場は混んでいたのをついフラフラと入ってしまったんです。それが結果的には良かったんですね。「つまようじ法」は雑誌とかで紹介されているので名前は知っていました。話を聞いて、「楽をして一生自分の歯で食べてね」という当院の方針にもってこいの方法だと思ったものですから、帰ってすぐ事務局に電話をして歯科衛生士の長浦さんに実習に来てもらいました。

この実習はとてもよいシステムですね。技術的な事は私がスタッフに教えなくても、この訪問実習を受ければ修得できるわけですから。医院としてつまようじ法をどのように採り入れているのかというのは PMJ 歯科の黒瀬先生のところにスタッフを連れて見学に行き勉強させてもらいました。

—これまでいろいろな歯周病治療法を試してこれたとのことですが、つまようじ法採用の決め手は？

私はセミナーとかで話を聞いて良さそうなものは必ず「見学に行ってもいいか？」と聞くようにしています。実際にそこに行ってみて本当にいいかどうか確かめて判断するというスタイルです。もともと歯周外科は患者さんにやさしくない

という考え方でしたので、入りやすかったのかもかもしれません。つまようじ法は実習に来てもらうこともでき、スムーズに導入できました。治療効果も高く、今では日常診療の流れの中で外せないものになっています。



メンテナンス患者の比率が上昇

—メンテナンスの患者さんのリコール率も高いとのことですが。

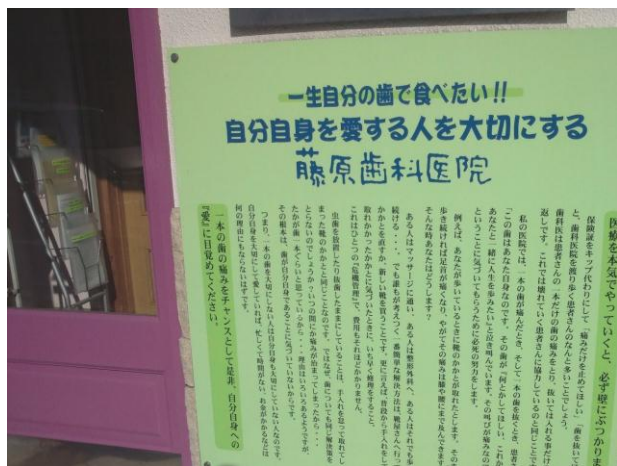
私はメンテナンスのチェックを主に担当していますが、つまようじ法で「めちゃくちゃ気持ち良かった」という患者さんの話を聞くとうれいんですね。歯科衛生士も励みになっていると思います。スタッフには常日頃から、「自分のしてほしいくないことはするな、もし家族ならどんな治療を望むかを考えよう！」と話していますが、つまようじ法はまさに「してほしいこと」ですね。

今は治療のチェアが 4 台、メンテナンスのチェアが 2 台という形を取っていますが、将来的にはこれを逆転させたいと考えています。レセプト枚数でいうと治療とメンテナンスがほぼ同じ枚数です。前期に 2 回ほどメンテナンスが多い月がありましたので、レセプト枚数での逆転まではあと

もう少しというところです。課題はメンテナンスの担当制ができていないのと、キャンセルがあったときにそこをどう埋めるかといったことですが、キャンセル率は3～7%程度ですから、ほとんど来てくれているとあっていいと思います。

は・は・は通心

—入口横にはメッセージ入りの看板を出されたりと、ユニークな取り組みをされています。



看板は大きく変えようと思っていて、友人の看板屋さんが次来た時には話をするつもりなんです、なかなか来ないんですよ(笑)。「当院を選んで初めて来院された貴方に院長からのメッセージ」という手作りの小冊子には、治療方針などに関する私の考え方を書いています。初診の患者さんにはこの小冊子を渡した上で、問診票で応急処置だけを望むのか、この際全部治したいのかというような質問をして、患者さんのニーズを確認して治療内容を提案できるようにしています。スタッフのユニフォームも夏はアロハシャツにしたりと定期的に変えています。

治療でもいいと思ったものはどんどん採り入れます。最近聞いた言葉で「早期発見・様子見」というのがあります。もう30年以上前になりますが、学生時代にバイト先の先生から「アマルガムは総入れ歯の一里塚」と教わったことがあります。私自身長年の臨床でそのことが身に染みてよく分かり、必要のないカリエス処置はしなくなりま

したが、そのころからそういうことを言う先生がいたんですね。今は患者さんに「早期発見・早期治療」ではなくて「様子見」と呼びかけています。

院内新聞も月刊で出しており、タイトルは「は・は・は通心」です。私はパソコンが得意ではありませんが、スタッフがいろいろやってくれるので助かっています。

初診とメンテナンスの患者さんだけを診るようになるのが理想

—藤原先生の新しいものに取り組む姿勢はとて65歳とは思えないですね。

今の私の目標は、初診の患者さんを診るのと、メンテナンスに来られている患者さんのチェックだけをするようになることですね。詰めたり削ったりというのは勤務医の先生に任せられますから。新規の患者さんとメンテナンスの患者さんは大事にしないとイケないと思っています。



▲藤原歯科医院のスタッフの皆さん。右上が藤原先生。

藤原 一樹 (ふじわら かずき)

【略歴】

- 1975年 大阪歯科大学卒業
- 同年 神戸中央市民病院勤務
- 1977年 藤原歯科医院開業 (3回移転)

【取材後記】

藤原先生は今年で65歳、開業35周年を迎えられたようですが、昨年からつまようじ法を採り入れられたように、まだまだ新しいことにも積極的で、大変活動的な印象でした。スタッフの皆さんと共に、これからもますますのご活躍を期待しております。(草野)

●活動報告

予防歯科臨床セミナー(2 回コース)

1回目(基礎編)

日時:平成 24 年 10 月 14 日(日)10:00~16:00

会場:国際ファッションセンター(東京)

参加者数: 26 名

■講師

pmj 歯科診療所 黒瀬真由美

小畑歯科医院 小畑文也



予防歯科臨床セミナー(2 回コース)

2回目(応用編)

日時:平成 24 年 11 月 11 日(日)10:00~16:00

会場:国際ファッションセンター(東京)

参加者数: 22 名

■講師

pmj 歯科診療所 黒瀬真由美

小畑歯科医院 小畑文也



【韓国でのつまようじ法に関する講演会等の開催】

渡邊達夫先生特別講演会・研修会

日時:平成 24 年 10 月 19 日(金)、20 日(土)

会場:韓国・朝鮮大学歯科病院他

全北大学・張起完教授、朝鮮大学・金同起教授、釜山大学・金鎮範教授の招待により、韓国にて渡邊先生の講演会が開催されました。



天安市・ムン歯科病院での講演会

日時:平成 24 年 10 月 27 日(土)

会場:韓国天安市・ムン歯科病院

講師:小畑文也

参加者数:約 80 名

講演の後、小畑歯科医院スタッフによるつまようじ法の体験会も行いました。



大韓臨床予防歯科学会

日時:平成 24 年 10 月 28 日(日)
会場:韓国水原市・阿洲大学病院
演題:予防歯科が医院経営を変える
講師:小畑文也



大韓審美歯科学会

日時:平成 24 年 11 月 2 日(日)
会場:韓国ソウル市・世宗大学
演題:審美補綴物のための渡邊ブラッシング法
講師:黒瀬真由美



●事務局からのお知らせ

●CG 版つまようじ法解説ムービーが完成しました

一般の方にも、つまようじ法の磨き方などをより知っていただくため、CG 版のつまようじ法解説ムービーを制作いたしました。今回委員の皆様へ DVD 版でお届けしていますので、患者さんへの紹介や説明用にご活用いただければと思います。YouTube でもご覧いただけますので、お口の健康ネットワークホームページからアクセスしてみてください。

●過去の会報について

今回の会報で第 15 号となりましたが、過去の会報は会員専用サイトからご覧いただけます。会員サイトには下記にてログインできます。

ユーザー名 : ご登録電話番号(半角でハイフンも含めて) (例)012-345-6789

パスワード:会員番号 ohn (例)123456ohn (会員番号は封筒の宛名シールにも記載している 6 桁数字)

(編集後記)

昨年は韓国の学会等でつまようじ法を紹介する機会が複数あり、今後の普及に期待が高まりました。日本でも高齢化が加速し、医療費が増大する中で、つまようじ法は低コストで多くの人に有効な、さらに歯科医療者にとっては活躍の場を広げる優れた方法ではないかと思えます。今後委員の皆様と共に普及のスピードを加速させていければと思います。本年もどうぞよろしくお願いたします。

(事務局 草野栄路)

お口の健康ネットワーク会報 No.15

2013 年 1 月 10 日発行

発行 : NPO 法人お口の健康ネットワーク

〒700-0953 岡山市南区西市 541-1

TEL. 086-244-4692 FAX. 086-244-1351

<http://www.oral-health-network.jp>

(facebook ページも開設しました)

会員専用サイト : <http://www.ohn-member.com>

E-mail : info@oral-health-network.jp